

1 決算の概況

平成29年度 置賜広域病院企業団決算の概要

(1) 決算の概要

◎ 経常収益 156 億 7 百万円、経常費用 155 億 62 百万円、差引き 45 百万円の経常黒字。

総収支では、4 億 4 千 7 百万円の純利益。

◎ 企業団全体の医業収支は、医業収益 128 億 98 百万円、医業費用 148 億 39 百万円、差引き 19 億 41 百万円の医業損失。

◎ 基幹病院(総合病院+救命救急センター)では、延べ入院患者数の減により医業収益が減少したものの、設備関係の減価償却が完了したことによる医業費用の減少により、医業収支は改善。

◎ サテライト医療施設では、主に長井病院の精神科病棟の閉鎖に向けた患者調整の影響による延べ患者数の減により医業収益が減少し、医業収支は悪化。

(2) 平成29年度決算

(単位:百万円)

科目	企業団全体	基幹	サテライト
経常収益 A	15,607	13,150	2,457
医業収益 a	12,898	10,984	1,914
対前年度増減	▲104	▲20	▲84
医業外収益	2,709	2,166	543
経常費用 B	15,562	13,289	2,273
医業費用 b	14,839	12,630	2,209
対前年度増減	▲377	▲316	▲61
医業外費用	723	659	64
医業収支 C (a-b)	▲1,941	▲1,646	▲295
経常収支 D (A-B)	45	▲139	184
対前年度増減	▲304	▲286	▲18
特別損益 E	402	603	▲201
対前年度増減	473	460	13
総収支 D+E	447	464	▲17
対前年度増減	169	174	▲5

(3) 病院ごとの医業収支の概要

基幹病院	減価償却費の減少により医業収支は改善
・H29.11月から7対1入院基本料を取得したことにより診療単価は上昇したものの、延患者数の減少の影響が大きく医業収益は減少。一方、28年度で電気・空調等設備関係の減価償却が完了したことにより医業費用も減少し、収支は、前年に比べ2億96百万円改善した。	
長井病院	精神科病棟閉鎖に向けた調整により医業収支は悪化
・精神科病棟の閉鎖に向けた患者調整による延患者数の減少により医業収益は減少。医業費用も減少したものの、収益の減少幅が大きく、収支は、前年に比べ36百万円悪化した。	
南陽病院	減価償却費の減少により医業収支は改善
・延外来患者数の減少により医業収益は減少。建物関係の減価償却が完了したことによる減価償却費の減少により医業費用も減少し、収支は、前年に比べ9百万円改善した。	
川西診療所	患者数の増と経費縮減により医業収支は改善
・延患者数の増による医業収益の増加に加え、診療材料費の縮減に努めたことにより、収支は、前年に比べ4百万円改善した。	

2 患者の概況

(1) 入院

- 入院収益は、診療単価が増加したものの、延べ患者数が大きく減少したため、1 億 41 百万円の減少。
- 延べ患者数は 179,095 人で、前年度と比べ 17,251 人の減少。
- 診療単価は 46,887 円。うち基幹病院は、H29.11 月から 7 対 1 入院基本料の新規取得などにより、前年度に比べ 3,431 円上昇。サテライトは、地域包括ケアの取組みなどを推進したことにより、前年度に比べ 1,690 円上昇。



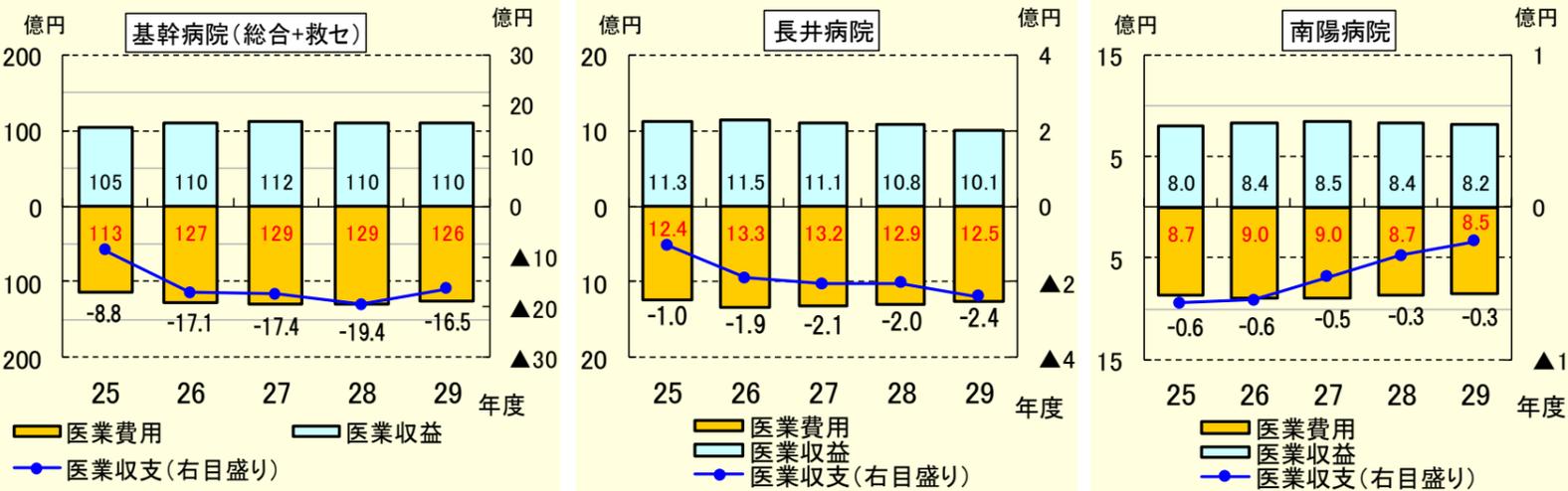
(2) 外来

- 外来収益は、延べ患者数がほぼ横ばいであったものの、診療単価が上昇したため 63 百万円の増加。
- 延べ患者数は 333,989 人で、前年度と比べ 218 人の減少。
- 診療単価は 12,423 円。うち基幹病院は、前年度に比べ 206 円上昇。サテライトは、前年度に比べ 76 円上昇。

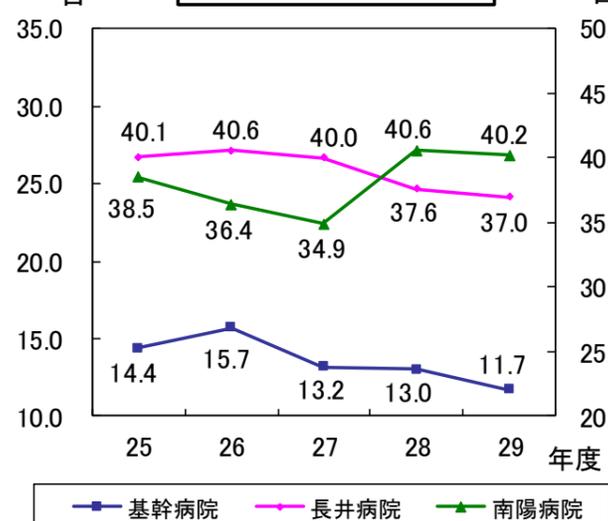


3 各指標の状況

医業収支



平均在院日数(一般病床)



病床利用率(一般病床)

